

〔筆のすさび三〕一通稱之說 記事の文に、近代の人、諱ゑれざるは、何某右衛門、何某兵衛とかくべきは論なし、玄かるを文字俚なりとて、彌三郎を單に彌と稱し、又太郎を又、平右衛門を平とかきしあり、學びがてらに一話を記するごときはいふにたらず、記錄史志の類ならば心あるべし。太郎次郎は、通用にそへて稱するなれば、はぶきててもよしとせば、彌又は、親も三郎子も三郎なれば、其子を彌三郎、又三郎など、いふにて、彌も又も同じく通用の稱なり、其人の名にはあらず、平右衛門源兵衛は、もと平氏の右衛門、源氏の兵衛なり、さればこれも名とはいひがたし、今時稱謂みだれて、かゝるけぢめもなければ、せんかたなく何某右衛門、何某兵衛とかくの外なし。

〔秋齋閑語〕壺井翁撰述の書に、壺井安義智著があり、いかなる書式にや、安を字とはいかゞ、常に安左衛門と名のられし故にや、近代二字の姓を一字に切て書事はまゝあり、是以姓を私に切はいかゞなれ共、唐人風に一字姓にしたき心より書なるべし、可然事共不覺いはんや名の字を切は、一向論に及ばず、察するに山崎嘉右衛門、朱熹に習て字似たるゆゑか、山崎嘉と書れしに元づいて、安と書れしものか、壺井翁程の達人もかゝる誤あるにや。

〔日知錄二十三〕古人二名止用一字

晉侯重耳之名見於經、而定四年、祝他述踐土之盟、其載書止曰晉重、豈古人二名可但稱其一與、昭二年、荀展輿出奔吳、傳曰、荀展之不立、晉語曹僖負羈稱叔振鐸爲先君叔振、亦二名而稱其一也、〔言成卿記〕慶應二年十一月三十日、今日賀茂臨時祭略中韓神曲了、才男召人長、召立云、マツリゴトモオウモオウチギミ藤原朝臣陳其子細ハ、予と新相公等同官同位、扱可召其下屬之間、陳光卿、諱片字ヲ加召云々、昨冬北祭、久世宰相中將、梅溪宰相中將、同官同位下屬可召梅溪之間、マツリゴトモオウチギミ源朝臣善久世ハ通熙、梅溪ハ通善、依之諱片字、上字同訓者、下字善召云々、今晚予ハ言成、新宰相ハ陳光マギレナキ間、上字陳ト召云々、今晚如此舊例可尋、